

政策会議 議事概要

- 1 日時 令和4年8月25日(木) 15時00分 ～ 15時50分
- 2 場所 第一会議室
- 3 出席者 市長、大木副市長、青柳副市長、総務局長、総合政策局長、財政局長、総務局次長、総合政策部長、教育次長、学校教育部長、生涯学習部長
- 4 議題 第3次千葉市学校教育推進計画(案)・第6次千葉市生涯学習推進計画(案)について
【方針決定】(教育委員会)

5 議事概要

【決定事項】

- ・第3次千葉市学校教育推進計画(案)・第6次千葉市生涯学習推進計画(案)を別紙のとおり決定する。

教育次長、学校教育部長、生涯学習部長 ～資料に沿って説明～

(質問・意見等)

- ・第3次千葉市学校教育推進計画(案)について

総合政策局長 歯と口の健康におけるフッ化物洗口について、厚生労働省によれば、やや幅があるが30～80%程度の虫歯予防効果があるとされており、千葉市においてもモデル事業として7校で取り組まれている。実施体制が整わないといったこともあり、大幅に導入校数を増加させるのは難しいということは承知しているのだが、もう少し拡充することはできないか。

次に不登校特例校について、現在不登校児童・生徒がこれだけ増えている中で、公の教育をどのようにしていくのかが重要なテーマになっており、骨太の方針の中で特例校の設置が初めて明記された。全国を見ると、香川県の三豊市の高瀬中学校の夜間中学では、不登校生徒の受け入れを開始している。また、京都市の洛友中学校では、不登校特例校と夜間中学を併設している。そして大阪市も、2024年に併設型の開校を目指しているようだ。本市はライトポートの機能拡充を目指すので、その際にフリースクール活用も含めた不登校対策の全体像の点検と検討を行ってほしい。また、夜間中学における学齢期の生徒の入学要件の緩和についても、検討してほしい。夜間中学については、当初からというのは難しいということは承知しているが、ある程度安定化した時にそういったことができればと思っている。こちらについては、今後に向けての意見として聞いておいてもらえればと思う。

学校教育部長 フッ化物洗口については、小学校7校でモデル事業として実施しているが、コロナ禍の現在はその内の1校でしか実施できていない状況である。令和2年度には、分析検証を委託している東京歯科大学から、今後も継続して研究してい

くことが大切だという回答を得ている。また、歯科医師会及び保健福祉局と効果検証も行っており、令和3年度以降も引き続きモデル校で実施し、更なる効果検証を行っていくという意思の一致の上で、現在進めている。拡充についての検討も、今後はしていこうと考えている。

総合政策局長

国レベルの効果検証結果に幅があるというのは、地域差があるかというよりも、むしろ、フッ化物洗口のやり方によってその出方に違いがあるということなのではないかと思う。何歳から行うのか、また何年間行うのかということによって、その効果がいつまで続くのか、その発現効果が何%なのかという違いになるのではないか。そういった点に注意しながらデータ分析を行うことで、多少幅があるものの、国が言っているように虫歯予防の効果があるという結果になるのではないかと推測している。効果検証を進めつつ、増やせるものであるならば、少しずつ着実に体制を整えつつ拡充してもらえればと思う。引き続き検討をお願いしたい。

財政局長

アクションプランについては、項目によっては年度ごとに細かく書かれているが、案の中でも目標数値としての記載なので、それぞれの時点の予算編成の中で協議させてもらいたいと思う。

また、5年度分については、予算ということで調整したものを議会に説明してもらいたいと思う。

市長

G I G Aタブを使った教育における先生間の格差、学校間の格差について、保護者から指摘を受けることがある。教育センター等を活用して、一定レベルのものにしてもらいたいと思う。また、子どもルームやアフタースクールでの宿題等でのG I G Aタブの取扱いについては、学校でどのような指導をするか等、よく連携を取ってもらいたいと思う。

部活の地域移行の話について、課題として捉えて項目化してくれているが、文部科学省が非常にタイトなスケジュールを示していると感じている。これはかなり大きな話になる。現在モデル実施は学校ごとに行っているが、全校でどのような人員配置にするか、人のやりくりをどうするかということが問題になってくると思う。スポーツ振興課との連携という話を聞くが、どちらが主導するのか等、具体的に両局でどうしていくのかという検討体制も整えていかなければ、後手後手になってしまう恐れがあると危機感を抱いている。令和7年度や8年度にどこまで到達するのかということを決め、逆算して準備を進めていかなければ間に合わないだろう。各校から広げて、市内全体で人材をどのように融通していくのかということを検討していく中で、どうしても解決できない課題があれば、国や県に要望していかなければならない。また、地域移行できない部分については、先生にやってもらわなければならないこともあると思う。国の方もぎりぎりまで検討を行うと思うので、並行して地域のリソースの発掘等しておく必要があるだろう。新しい大きな課題だと思うので、今の段階から検討体制を組んでおいてもらいたい。

フッ化物洗口については、歯科医師会からは前向きなコメントがあり、今の進め方よりももう少し踏み込んだ進め方をしてはどうか、協力もするということもも言っていた。東京歯科大学と進めているということだが、歯科医

師会の意向も確認しながら、協力いただけるならば範囲を広げてもいいのではないか。

夜間中学については、実際に生徒がどこまで集まるかというのはまだ分からないので、学齢期の生徒にどう対応していくかは、入学予定者の数も見ながら方針を立ててもらえればと思う。

・第6次千葉市生涯学習推進計画（案）について

総合政策局長

千葉氏関連施策について、開府900年に向けて準備を加速化していかなければならない時期にあるので、企画展や発掘調査といった項目を盛り込んでもらえたことに感謝する。郷土博物館展示リニューアルについては、通史で時代区分型の展示という色が強いのかと思っていたが、千葉氏を中心とした主題展示に力を入れるということを知ったので、魅力的な展示になるのではないかと期待している。ぜひ多くの市民、県民の皆さんに興味を持っていただけるよう取り組んでいてもらいたい。

開府900年にあたっては、前年になってから気運を高めるというのはなかなか難しい。来年から地道にやっていかなければならないという状況であるロードマップの中身を充実させていくよう、段階的に準備を進めていくので、公民館事業を含めた生涯学習の各分野だけでなく、学校教育においても、開府900年の理解・促進等、都市アイデンティティ確立に向けての機運を高めていけるよう協力をお願いしたい。

現行の2つの計画は合本されており、今回の改定計画も同じ形になると思う。その場合、通しで読む方もいると思うので、記載のルールを統一した方がよい。具体的には、各論部分で、学校教育推進計画の方では、成果指標との結び付きをアクションプランの事業名の右上に番号で記載しているが、生涯学習推進計画にはその記載がない。一方で、生涯学習推進計画には、新規拡充事業の記載があるが学校教育推進計画にはないといったこともある。読み手に分かりやすい記載方法で、統一してもらいたいと思う。スケジュールの書きぶり等にも違いがあるので、細かい部分ではあるが、最終調整の際そういった所を整理してもらいたい。

生涯学習部長

2つの計画の記載については、できる限り統一させていただく。

大木副市長

公民館における機能強化策については、単に社会教育主事という資格者を増やすということだけではなく、実際の中身が重要だと思っていたが、その点についても考えられているようだ。地域課題の把握、その課題解決のための講座を実施し、受講後も学び続けられるようなサークル化を図るとするのはとても良い取り組みである。特に講座受講後も学び続けられるという点については、少し生涯学習という観点とは異なるのかもしれないが、区と連携して課題解決の担い手となって地域で活躍してもらえそうな体制づくりも、検討してもらえればと思う。

生涯学習部長

学校教育推進計画で市長から発言のあった、学校活動外の子どもルームやアフタースクールでのGIGAタブの取扱いについては、こども未来局と連携して利用方法やルールの検討をしている段階である。

総合政策部長

若葉図書館、千城台公民館の再整備について、その目的が、生涯学習環境を改善するために複合化して建て替えると記載されているが、ややハード面に寄った表

現になっていると感じられる。公民館の機能面、図書館の機能面を、相乗効果で強化できるような意味合いでの表現を、可能ならば今回の計画にも入れ込んでもらいたい。タイミングとして難しいのであれば、実際の検討の中で、そのような発想のもとでレイアウト等を考えてもらえると、大変よいものになるのではないかと思う。

生涯学習部長 環境改善という言葉であると、確かにハード的な面が強いかもしれないので、より良い表現に修正したいと思う。

市長 公民館の機能強化について、教育振興財団を指定管理者としている目的は、専門性を高めていくためであるので、望ましい社会教育指導主事の仕事の仕方が浸透するようにしてもらいたい。関連分野と積極的に連携していくという仕事の仕方が大切なので、どういう動きが求められているかということは、よく財団と共有する必要がある。個々の職員の考え方に左右されてしまうところがあるかもしれないが、今回の計画の中の主要な部分の1つだと思うので、どういったことが期待されているのか、一人一人の職員に伝わるようにしてもらいたい。

郷土博物館のリニューアルについては、歴史を振り返りさらに未来へつなげていくという中で、展示や情報発信のコンセプト、講義室も作るようなので、実際にどのような取組みを市民の方と展開していくか等、どういった使い方をするかも含めて検討してってもらいたい。また、まちの歴史に関する情報がまとめて手に入る、市民に新しい情報を提供できるといったようなポジティブな機能を持たせてもらいたい。知的好奇心が満たされるようなやり取りができる博物館になればと思うので、そのために博物館職員に求められる業務のありようといったものも、検討してもらいたい。少なくとも、新しい郷土博物館が出しているメッセージがしっかりと説明できる体制や、まちの歴史に関するNPO等の取組みについても情報が得られる場所にしてもらいたい。加曽利貝塚博物館のように関連している方々との連携を取っていくという体制を整えられるよう、早い段階から検討するように。

生涯学習部長 入ってわくわくするような場所にできるよう、取り組んでいきたい。

市長 両計画の案については、この会議での意見や今後の実施計画についての議論の内容等も適宜反映させていくという前提で、方針決定とする。

— 結果 —

会議での意見等に対応することを前提に方針決定とする。

6 照会先

・会議の運営について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043-245-5056

・議題について

教育委員会学校教育部教育改革推進課

TEL 043-245-5936

教育委員会生涯学習部生涯学習振興課

TEL 043-245-5954